

明智光秀

「本能寺の変」を起こした



「明智光秀肖像」(本能寺所蔵)

は、善政をしいた名君だった。

明智光秀



車

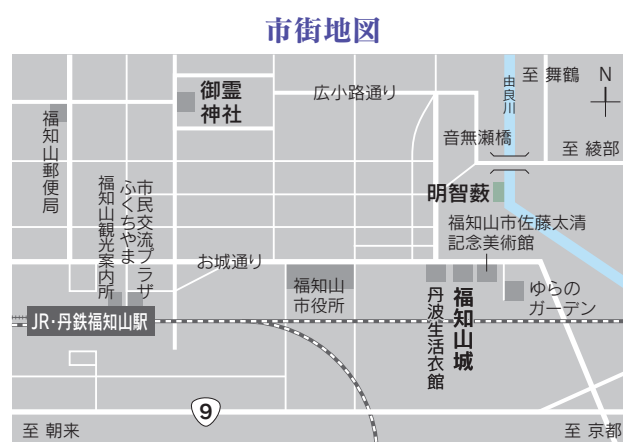
- 京都から 京都縦貫自動車道、国道9号で約85km(約1時間45分)
- 大阪から 中国自動車道、舞鶴若狭自動車道で福知山ICまで 約100km(約1時間30分)
- 神戸から 舞鶴若狭自動車道、六甲北有料道路などで福知山ICまで 約95km(約1時間20分)

鉄道

- 京都から JR山陰本線で約1時間15分(特急)
- 大阪から JR福知山線で約1時間35分(特急)

高速バス

- 大阪(なんば)から 約1時間40分(直通)
- 神戸(三ノ宮)から 約1時間30分(直通)



観光のお問い合わせは
福知山観光案内所(おみやげ処)
〒620-0045
京都府福知山市駅前町439(福知山駅北口)
TEL 0773-22-2228
<http://www.dokkoise.com/>



大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会



明智光秀・細川ガラシャ・細川幽斎・細川忠興。これら4人は、激動の人生を生きた父と娘、父と息子、そして夫婦であり、その後の日本の歴史に大きな影響を与えました。
ゆかりの地である京都府の8市町、兵庫県2市、福井県1市では、2020年の大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を契機に、ゆかりの地域の自然や歴史文化を全国に発信し、観光振興と地域の活性化に繋げることを目的に活動しています。激動の戦国時代を生きた4人ゆかりの地へぜひお越しください。

<http://www.taiga-dorama.com/>

福知山光秀ミュージアム

2020年 1月11日(土) - 2021年 1月11日(月・祝)

- ❁「麒麟がくる」大河ドラマ企画展 かけ～明智光秀 丹波を翔る～
- ❁特別展示〈丹波と光秀〉〈重要資料〉
- ❁映像展示“光秀シアター”(福知山城内)



開館時間:午前9:00～午後5:00(入館は午後4時30分まで) 年中無休
場所:福知山城公園内・佐藤太清記念美術館
(京都府福知山市字岡ノ32-64)

入場料

	個人		団体 (30名以上)	
	ミュージアム	ミュージアム + 福知山城	ミュージアム	ミュージアム + 福知山城
大人	500円 (前売り400円)	700円 (前売り560円)	450円	670円
子ども (小学生～中学生)	250円 (前売り200円)	300円 (前売り240円)	220円	280円

※全国の小中高校の学校行事は無料!

問合せ:福知山光秀プロジェクト推進協議会
TEL:0773-48-9108 FAX:0773-48-9109

発行 福知山市 令和元年10月発行

— 明智光秀が築いた城下町 —
京都・福知山

明智光秀と福知山城

福知山城は、天正7年（1579）頃、丹波を平定した明智光秀によって西国攻略に向けた拠点のひとつとして築かれた城です。光秀は、それまで横山城とよばれていた簡素な搔上げ城を拡充整備し、福智山城と改めました。以来、戦乱の時代にあつて、城主が交代する中、順次整備が進められ、慶長5年（1600）頃に近世城郭として完成しました。

丹波の山々に囲まれた盆地の中央にあり、由良川やその支流を天然の堀とし、丘陵を巧みに利用した要害であつたと伝わっています。天守閣は、初期望楼型とよばれる古い様式で、内部も初期天守の特徴を持っています。

明治6年（1873）の廃城令により石垣と二部の遺構を除き大部分が取り壊されましたが、昭和61年（1986）に、市民の瓦一枚運動などにより天守閣が復元されました。

所在地：京都府福知山市字内記
築城者：明智光秀
別称：臥龍城（がりゅうじょう）
築城年：天正7年（1579）頃
天守復元：昭和61年（1986）
形式：平山城
遺構：石垣、銅門番所など
開館時間：午前9時～午後5時
休館日：年末年始（12月28日～12月31日、1月4日～1月6日）
入館料：おとな330円
電話：0773-23-9564

光秀時代の面影を伝える野面積みの石垣

福知山城天守台の石垣は、光秀が築城した当時の面影を伝えています。一見乱雑に見える積み方は「野面積み」と呼ばれ、自然石を巧みに組み合わせたものです。また石垣には、五輪塔や宝篋印塔などの石材が数多く使われており、転用石と呼ばれています。おそらく近隣の寺院から集められたもので、その理由には諸説ありますが、この地の旧勢力の象徴であつた寺院を破壊し、石垣に組み込むことで支配を示そうとしたものと考えられています。



困窮していた浪人時代、来客をもてなすため、照子は自身の黒髪を売りお金に換え、光秀の面目を保ったといわれています。その献身的な姿を、松尾芭蕉は「月さびよ 明智が妻の 咄しせむ」と詠んでいます。多くの苦難を二人で乗り越え、夫を支え続けた照子を、光秀もまた生涯をかけて愛し続け、側室を持つことはなかったそうです。

光秀の正室・照子

光秀の娘・細川ガラシャ

光秀と照子の三女・玉として生まれました。織田信長の勤めで、16歳のときに細川忠興と結婚しましたが、父・光秀が起こした「本能寺の変」によりその人生は大きく変わり、夫・忠興の手で「逆臣の娘」として丹後の味土野に幽閉されることになりました。秀吉の許しで忠興のもとに戻った玉は、しだいにキリスト教に救いを求め、「ガラシャ」の洗礼名を受けました。その後、関ヶ原の戦いに際しては、石田三成の人質となることを拒み、家臣にその胸を貫かせ生涯を閉じました。

光秀の盟友・細川幽斎（藤孝）

光秀の盟友で、同じ時期に将軍家に仕え、ともに信長の配下となり、光秀は丹波を、幽斎は丹後を平定しました。ともに戦い続けたもっとも近い二人でしたが、「本能寺の変」では細川家を守るため、光秀からの誘いを拒絶して出家しました。その決断は、光秀の敗北を決定づけるものでした。武芸にも文化にも優れ、和歌の秘技「古今伝授」を受け継ぐほどの人物であつたといわれています。



「明智光秀公肖像」(本徳寺所蔵)

明智光秀

「本能寺の変」において主君・織田信長を討ち、山崎の戦いに敗れた光秀ですが、連歌や茶道にも造詣の深い教養人であり、丹波などかつての所領においては善政を行った名君として今も慕われています。また、その政治的手腕は、最先端の教養と知識を備えた人物であつたことを物語っています。信長に仕える前の出自や経歴については不明な部分が多いものの、流浪の中で学問、鉄砲の技術、城攻めなどの戦略や知識を重ねていったと考えられています。

福智山

丹波山地のやさしい風が吹きおろし、由良川の雄大な流れが貫く福知山。

何もなかった河原に新たな城と町を築いたのが、戦国武将・明智光秀でした。

光秀により「福智山」と名づけられたこのまちには、

今でも変わらないやさしい風と、領民に慕われた光秀の足跡が遺されています。



織田信長が認めた 戦国一の智将

主君・織田信長の命を受け、天正7年（1579）頃、丹波を平定した明智光秀。その丹波攻略では、波多野氏や赤井氏の激しい抵抗にあい、苦戦を強いられました。一度は敗退した光秀ですが、二度目の攻略の際には、智略をつくし、5年にも及ぶ壮絶な戦いを経てついに丹波を平定しました。その功績は、信長にも大いに称えられ、「丹波国日向守働き、天下の面目をほどこし候」と名指して賞賛されるほどでした。

名君として慕われ、領民に愛された 統治者としての手腕

城下町整備

福知山城下は、由良川と土師川

が合流する地点で、たびたび氾濫を起こしていました。光秀は、城下町の建設に伴い、現在の福知山駅付近まで蛇行していたと推定される由良川に堤防を築いて北向に固定し、堤防の前面には衝撃を和らげるための敷を設けたと伝わっています。かつて蛇ヶ端御藪と呼ばれたその藪は、今では「明智藪」として親しまれています。

地子銭の免除

西国への要衝となる福知山を発展させるため、光秀は地子銭（宅地税）を免除しました。現在に至る福知山の発展の基礎を築いた人物として、光秀は今でも福知山市民に慕われています。

日本史上最大の謎 本能寺の変

天正10年（1582）6月2日、京都・桂川を渡った光秀は、「敵は本能寺にあり」と号して本能寺に兵を向け主君・織田信長を討ちます。その真相は現在でも明らかになっていませんが、当時は「下剋上」の時代。光秀もその渦中にあり、主君信長への忠誠と反感の狭間で苦しみ、悩んだと思われます。その深さが、様々な説につながっているのかも知れません。

家中軍法

御霊神社に所蔵

されている「家中軍法」。これは、光秀が定めたと言われる、軍団の規律や軍役の基準を記した全18条からなる軍法です。軍の管理・統制を目的としたルールは、当時の織田家中にはまだ存在せず、先進的なものでした。自身を軍団長にまで引き上げた信長への感謝と敬意が込められたものでしたが、制定の一年後、本能寺で信長を討つことになりました。

神になった明智光秀公

「本能寺の変」から100年以上も後、当時の福知山城主・朽木植昌は、領民の願いを受け、宇賀御霊大神を祀る祠に明智光秀公の御霊を合祀し、御霊神社を創建しました。光秀の善政を語り継いできた領民たちは大いに喜び、光秀公のための「御霊会」はにわかに盛大になりました。



ごりようえ